

受賞者の概要

1 農業経営の部

(1) 審査経過

今年度の農業経営の部には、各地から7点の応募があった。受賞された方々は先見性のある経営戦略のもと、ICT技術の活用による生産技術向上やコスト削減等の努力に加え、販売方法等についても様々な創意工夫を重ね安定した高い所得を確保しており、本県の農業振興に大きく貢献し、農業者の模範となる経営が多く見られた。審査は「経営、生産技術、販売」の評価を基本に、地域貢献や環境保全、安全・安心といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 大賞（農林水産大臣賞・栃木県知事賞）

株式会社 新山（真岡市）

【経営の特色】

真岡市で水稲約71ha、食用二条大麦約20haを栽培する農地所有適格法人である。

積極的にスマート農業を導入することで作業の効率化を図っており、無人で耕うん作業を行えるロボットトラクタ、直線的な田植えができるGPS田植機、防除作業負担を軽減できる農業用ドローン等を活用することで、経験の浅い従業員であっても熟練者並みの精密な作業を実現している。

また、令和元(2019)年の法人化を機に福利厚生を充実させ、社会保険加入や休日・有給休暇制度の導入等で従業員が働きやすい環境を整え、多様な技術を持った人材の雇用につなげている。

経営面では、安定的な所得確保を目指し、水稲作付面積の9割以上で飼料用米の作付けを行う。主食用米は、全量を市内企業の社員食堂向けに契約販売しており、保冷库の導入によって食味の評価を上げることで、安定した有利販売を可能としている。

日本一のいちご産地において、主にいちご生産者から借り受けた水田を集積することで順調に増反を行ってきた。地域の信頼を第一に考え、雑草や病害虫の防除を丁寧に行い、地区の中心的な担い手として更なる規模拡大を目指している。

【受賞のポイント】

ロボットトラクタやドローン等のスマート農業機械を積極的に導入し、経験の浅い雇用者でも高水準な作業を行える体制を整えるなど、効率化を徹底している。更に、水稲作付面積の9割以上を飼料用米が占め、主食用米は全量を市内企業向けに契約販売することで経営の安定化を図っており、需要に応じた米生産による高収益を実現している点が特に高く評価され、大賞に選出された。



新山 勲 代表取締役・夢美 取締役



ロボットトラクタによる耕うん作業

● 栃木県知事賞

農事組合法人 日光アグリサービス（日光市）

【経営の特色】

オペレータ型集落営農組織を前身とする法人で、17名の構成員で水稲約43ha、大豆約27haの栽培に取り組む。土地利用型品目の作業改善を進めており、共同作業による効率化が構成員各自の経営における園芸・畜産品目の導入を可能としている。

【受賞のポイント】

構成員相互の作柄評価に応じ売上配分を決定することで、栽培技術の向上を図っているほか、後継者の育成に取り組むなど、今後の集落営農の模範となっている点が高く評価された。



日光アグリサービスのメンバー



効率的な収穫作業

● 栃木県知事賞

相場 照久 氏・相場 浩子 氏（宇都宮市）

【経営の特色】

約2.7haの梨を栽培し、品種構成の工夫により長期出荷リレーを確立。ジョイント仕立て栽培を県内でいち早く導入し、成園化に要する期間の大幅な短縮を実現したことに加え、独自改良した定植手法を他生産者に波及させるなど地域リーダーとして活躍している。

【受賞のポイント】

積極的に新技術を導入するとともに、情報発信する姿勢に加え、基本に忠実な栽培によって近年頻発する凍霜害・結実不良にも的確に対応している点が高く評価された。



相場 照久 氏・浩子 氏



ジョイント仕立て栽培の梨園

● 栃木県知事賞

青木 康彦 氏・青木 雅子 氏（那珂川町）

【経営の特色】

繁殖牛130頭と大規模な和牛繁殖に取り組む。県内トップクラスの飼養頭数でありながら、スマート農業を活用した牛群管理を行うことで、発情兆候を見逃さず、県平均を大きく上回る分娩間隔を実現している。

【受賞のポイント】

家族間の情報共有と作業分担、ヘルパーの活用を的確に行い、計画的な休暇取得が可能なくとある畜産経営を実現している点が高く評価された。



青木 康彦 氏・雅子 氏



牛舎での給餌作業

2 農村活性化の部

(1) 審査経過

今年度の農村活性化の部には、各地から6点の応募があった。他の組織と連携し、地域資源や人材を活かした地域活性化に取り組み、地域の魅力発信による交流人口の増大に寄与するなど、本県の農村活性化に大きく貢献し、他地域の模範となる組織・団体が多く見られた。

審査は「地域づくりの担い手の確保、地域農林水産業への寄与、住みよい農村環境の保全・向上」の評価を基本に、地域づくりのための自主的な努力・創意工夫や、合意形成・計画性、推進体制の整備・運営といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 大賞（関東農政局長賞・栃木県知事賞）

Zutto きよはら（宇都宮市）

【活動の特色】

「清原地区を愛し守っていく」という思いから、平成26(2014)年に地区の農業者を中心にレストランや福祉施設などで働く他分野のメンバーが集まり、地元野菜の6次産業化プロジェクトの開始を契機に「Zutto きよはら」が設立された。その後、グリーン・ツーリズムや農福連携など、幅広い活動を展開している。

メンバーでアイデアを出し合い、「きよはらピクルス」など地元農産物を使った6次産業化商品を開発し、地元だけでなく東京等各地においてマルシェやイベントへの出店、販売会を行うなど、幅広い販促活動を実施している。

また、地域の社会福祉法人と連携して農福連携に取り組み、施設利用者の就労の場の確保や技術の習得等に貢献している。

【受賞のポイント】

6次産業化商品の開発やグリーン・ツーリズムの推進など、幅広い取組によって地域の魅力をPRしていることに加え、地域の社会福祉法人と連携して農福連携に取り組み、利用者の就労の場を創出している点が特に高く評価された。



Zutto きよはらのメンバー



様々な6次産業化商品

● 栃木県知事賞
閑援隊（佐野市）

【活動の特色】

移住者を含む、閑馬地区の農地の状況に危機感を抱いた地域住民によって平成 30(2018)年に設立され、耕作放棄地を活用した稲作、甘茶栽培など、地区の活性化に向けた取組を行っている。

農業体験や農泊ツアー等の都市農村交流も実施し、将来子供たちが帰りたくなる地域づくりに取り組んでいる。

【受賞のポイント】

地域が抱える耕作放棄地等の課題の解決に向け、地域住民のみならず移住者も主体的に活動に参加し、実践的な取組を行っている点が高く評価された。



閑援隊の隊員たち



田植え作業の様子

● 栃木県知事賞
西方町農産物加工組合「おとめ会」（栃木市）

【活動の特色】

地域農産物の P R、女性の活躍の場の創出に向け、平成 15(2003)年に地域の女性が集まり設立した。地域農産物を活用した加工品の製造・販売、収穫ツアー等の都市農村交流活動や地産地消の推進に継続して取り組んでいる。

【受賞のポイント】

女性が主体となって活躍している点や、継続的に 6 次産業化等に取り組んで地域農産物の販売促進・P R に貢献している点が高く評価された。



「おとめ会」のメンバー



いちごジャム加工

● 栃木県知事賞
里西環境保全会（益子町）

【活動の特色】

平成 24(2012)年に設立され、多面的機能支払交付金事業を活用し、農業者だけでなく地域全体で草刈りや植栽、遊休農地を有効活用したビオトープ整備など、里西地区の農村環境を守り続けていく活動を行っている。

【受賞のポイント】

地域住民に対し丁寧に合意形成を図り、非農業者や多様な関係組織と連携して幅広く環境保全活動を実施している点が高く評価された。



里西環境保全会役員



植栽による環境保全活動

3 芽吹き力賞

(1) 審査経過

今年度の芽吹き力賞には、各地から7点の応募があり、自身の経験に基づく独自性の高い農業に取り組む若手農業者が多く見られた。それぞれが理想とする農業の実現を目指し、着実な規模拡大を図るだけでなく、独創的かつ効果的なブランド化を行うなど、今後の発展が期待される。

審査は「活動の動機と着想、課題解決に向けた創意工夫」の評価を基本に、推進体制や活動の成果、今後の発展性といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 栃木県知事賞

児矢野 翔吾 氏・児矢野 夏海 氏（真岡市）

【取組の特色】

新規参入当初から企業的な経営を志し、営業・販売担当の友人たちと4人でトマト生産に取り組む。販路開拓に積極的に取り組み、出荷先は県内スーパーや東京都内など約160店舗に上る中、分業体制を活かした緻密な出荷調整で販売ロスを低減させている。

【受賞のポイント】

梱包材や店頭POP、PR動画を自作しブランド化を図っていることに加え、営業スキルを活かして他の農業者のコンサルティングを請け負う独自性が高く評価された。



児矢野 翔吾 氏（最右）・夏海 氏（最左）



自らデザインした店頭POP

● 栃木県知事賞

岡崎 孝彦 氏（日光市）

【取組の特色】

奥日光という高冷地の特色を生かし、夏秋いちごの栽培を行う。県育成品種「なつおとめ」を地域資源と位置付け、多くの観光客が訪れる避暑地において、近隣ホテルへの出荷を中心に、老若男女が楽しめる観光いちご園の経営に取り組む。

【受賞のポイント】

ホテルへの出荷日といちご狩りの開園日の分離等の業務改善により、品質向上を実現したことに加え、独自に商標を取得しブランド化を図る新規性が高く評価された。



岡崎 孝彦 氏



「なつおとめ」の収穫風景

● 栃木県知事賞

手塚 徹 氏・手塚 智香 氏（さくら市）

【取組の特色】

水田を活用し、機械化一貫体系によるさつまいもの大規模生産を行う。地域農地の担い手となることを目標に、需要が見込まれるさつまいもに着目し、自ら販路開拓を行い地元食品企業との契約栽培を取り付け、就農3年目で隣接市を含め約14haの作付けをしている。

【受賞のポイント】

農福連携の取組やSNSを活用した情報発信を行いながら、積極的に規模拡大を図る姿勢が高く評価された。



手塚 徹 氏・智香 氏



収穫機「ポテカルゴ」による収穫風景

4 特別賞

(1) 栃木県農業協同組合中央会長賞

● 農業経営の部

石川 丈晴 氏・石川 直子 氏（足利市）

【経営の特色と受賞のポイント】

系統出荷用の大玉トマトと直売用中玉トマト、ミニトマトを合わせて 47a 栽培し、自動販売機やスーパーにおける直売に取り組む。トマトの農閑期に露地野菜を導入し、労働時間の平準化を図っているほか、暑さ対策の空調服配布など、労働環境改善に力を入れている。

系統出荷用と直売用の品種を使い分けることで所得確保を図っている点が評価された。

磯 和 氏（那須塩原市）

【経営の特色と受賞のポイント】

就農当初から酪農経営に取り組んできたが、経営リスク分散に和牛繁殖を導入、平成 30(2018)年からは繁殖に一本化した。分娩直後から個別管理ができるハッチで人工哺乳を行うことで、個体ごとの健康状態を把握することに加え、伝染病の抑制を図っている。

酪農経営の経験を生かした丁寧な管理により子牛の健康を保ち、哺乳期死亡ゼロを達成している点が評価された。

● 農村活性化の部

高瀬地区集落営農組合（那須町）

【活動の特色と受賞のポイント】

地域全体で農地を守っていくため、先進事例調査や集落営農説明会、アンケート調査等、丁寧な合意形成を経て、平成 26(2014)年に集落営農組合を設立。ホタルの保全活動や農業体験、企業と連携した那須の菜の花プロジェクト等、農村環境保全活動や地域資源を活かした誘客促進活動を行っている。

地域住民に加え、企業と連携して地域資源を活用した新しい活動を実施している点が評価された。

● 芽吹き力賞

株式会社 大麦工房アグリ（足利市）

【取組の特色と受賞のポイント】

食品企業の農業参入により設立された法人で、社会貢献を目的に、木が生えるほどの耕作放棄地を再生して食用大麦栽培に取り組む。親会社の通販顧客を対象に会員募集を行い、約 4,000 名に定期的な情報提供を行うなど、農業の理解促進を図っている。

食用大麦の契約栽培の普及により近隣大麦生産者の所得向上に資するなど、地域を巻き込み活動を広げている点が評価された。

吉村 潔 氏・吉村 慎子 氏（宇都宮市）

【取組の特色と受賞のポイント】

潔氏は特異性のある品目として原木しいたけ栽培を、慎子氏は自ら生産したぶどうでワインを作りたいことを志し経営を開始。福島第一原子力発電所の事故の影響で収穫間近のしいたけがすべて廃棄処分になる苦境を経験しながら、この地域だからこそできる生産物を目標に原木しいたけとぶどう栽培に取り組む。

原発事故やワイン醸造委託先での全量廃棄に見舞われながらも、着実に夢を実現している点が評価された。

(2) 下野新聞社長賞

● 農業経営の部

宇戸平 庄一郎 氏・宇戸平 清恵 氏（下野市）

【経営の特色と受賞のポイント】

ヒートポンプを活用した洋らんの周年栽培を行う。新品種育成に取り組み、栽培期間を20か月から14か月に短縮できる品種の作出に成功した。宇都宮市内の生産者と共同経営を行うことで、年間10万鉢を市場やオンライン花市場等に出荷している。

ネット通販による産地直送に力を入れており、宅配便出荷を前提としたコンパクトな株と乾燥耐性を目標とした育種に取り組んでいる点が評価された。

● 農村活性化の部

下芳井ほたるの会（那珂川町）

【活動の特色と受賞のポイント】

平成20(2008)年度に農業者の高齢化や耕作放棄地の増加等の地域課題を解決するため設立された。多面的機能支払交付金事業を活用し、農地や水路、農道の保全管理や、生き物調査、ほたる観賞会等の交流活動を継続的に行っている。

農地の保全活動に取り組むとともに、地域の景観を活かして交流活動を実施している点が評価された。

● 芽吹き力賞

菊池 大介 氏・菊池 恵美 氏（大田原市）

【取組の特色と受賞のポイント】

個人向けの野菜定期便をメイン商品として、直売のみの有機野菜栽培に取り組む。在来種や伝統野菜を積極的に導入しつつ、野菜の特徴の説明やレシピ紹介等を丁寧に行うことで、家庭で調理しやすくなるよう配慮している。

ホームページで栽培風景等を発信しながら通信販売を行い、着実に売り上げを伸ばしており、有機農業のモデル的な経営となりうる点が評価された。

株式会社 新日本農業（小山市）

【取組の特色と受賞のポイント】

いちご栽培に取り組む中、更なる経営発展を目指し6次産業化に挑戦する。スカイベリーを活用したジュースやいちご酢を「とちぎ HACCP」認証を取得した自社加工所で製造し、ホームページでの通信販売に加え、東南アジアへの輸出にも取り組んでいる。

自社加工所の建設により製造数の調整を可能とし、戦略的に販売を行っている点が評価された。